

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：33915

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K14181

研究課題名（和文）保育者用GRIT尺度開発とストレスマネジメントプログラムの提案

研究課題名（英文）The invent of GRIT scale for child care worker and suggestion of stress management program

研究代表者

田村 知栄子（Chieko, Tamura）

名古屋女子大学・文学部・講師

研究者番号：50801544

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000 円

研究成果の概要（和文）：保育者のストレス対処モデルを構築し、保育者用のストレスマネジメントプログラムの提案をしていく。さらに、保育者版GRIT尺度の開発をする。本研究内容は、保育者の早期離職を予防することの一助となりえると考え、結果をもとにストレス対処モデルを構築し、保育者および学生用ストレスマネジメントプログラムの提案を試みた。量的調査の結果から、保育者の困難状況のストレス対処モデルと効力感モデルの構築を試みた。その結果から、保育者の困難状況ストレス対処、GRITと保育者としての効力感モデルを構築する。このモデルから介入プログラムの試案を作成する。予備介入も始めていき、プログラムの修正および調整をおこなっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は社会的問題である保育者の早期離職問題とGRIT（やり抜く力）の概念を取り入れた研究である。その結果からバーンアウトへの影響が示唆され、GRITに着目したストレスマネジメントプログラムの開発が有用であることが導き出された。さらにコロナ渦であったことから、対面方式ではなくデジタルコンテンツを使用する着想にも至った。プログラム開発においては、

研究成果の概要（英文）：This study is focused on GRIT among child care workers. Recently their mental care has been argued because of their burnout. In this study, GRIT scale for child care workers has been invented. Then stress management model has been suggested. From these results the stress management program has been required.

研究分野：保育

キーワード：保育者 早期離職 GRIT ストレスマネジメント

様 式 C - 1 9、F - 1 9 - 1、Z - 1 9（共通）

## 1．研究開始当初の背景

日本における社会情勢の変化の中、保育者の需要は高まっているがその反面保育者の早期離職の問題は深刻化している。これまでも保育士のストレス研究、メンタルヘルス研究が盛んにおこなわれてきた。さらに世界に目を向けても、教師の離職に関する研究が報告されている。保育者・教師とともに共通するのが、多様な職場状況なかで起きる困難状況に直面する際のバーンアウト、そのような状況を克服できずに消耗し疲弊してしまう状態である。このような状況を乗り越えらえずにバーンアウトを起こし離職に至ると先行研究は報告している。しかしながら困難な状況にあってもすべての保育者がバーンアウトをするわけではない。困難な状況に挑戦し、やりがいを感じ保育者として成長をしていくものもある。このような資質を伸ばすことが保育者の専門性の確立や質の向上につながると考えた。そこで本研究ではGRITの概念に着目した。GRITはやり抜く力とも訳される非認知能力の一つであり、バーンアウトの緩衝要因となりうると考えられている。そこで保育者の早期離職とGRITが関連しているのではないかと考え本研究に着手した。

## 2．研究の目的

保育者のストレス対処モデルを構築し、保育者用のストレスマネジメントプログラムの提案をしていく。さらに、保育者版GRIT尺度の開発をする。本研究内容は、保育者の早期離職を予防することの一助となりえると考ええる。

## 3．研究の方法

保育者のストレスやその要因について国内外の文献検討をおこなう。さらに、GRITに着目した研究に関しても検討をおこなっていく。それと並行してインタビュー調査をおこなっていった。現役保育者（新人・中堅・園長）10名および養成校の学生10名から保育場面における困難状況とその克服に関する聴き取りをおこない、質的に分析をし、保育者および養成校の学生の困難状況とその克服に関する概念構築をおこなった。

調査項目を精査し保育者用GRIT尺度の開発をおこなった。申請者の勤務校の実習先である保育所・幼稚園200箇所および東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県の1都7県の「保育所名簿」「幼稚園名簿」「子ども園名簿」を参照し、記載順に等間隔法を用いて10園に1園の割合で協力対象園を抽出していき計1000か所を対象としていった。

前述の結果をもとにストレス対処モデルを構築し、保育者および学生用ストレスマネジメントプログラムの提案を試みた。前年度の量的調査の結果から、保育者の困難状況のストレス対処モデルと効力感モデルの構築を試みた。その結果から、保育者の困難状況ストレス対処、GRITと保育者としての効力感モデルを構築する。このモデルから介入プログラムの試案を作成する。予備介入も始めていき、プログラムの修正および調整をおこなっている。

## 4．研究成果

初年度は文献検討を中心におこない、またインタビュー調査をおこなっていった。さらには、質問紙調査の予備調査もおこなった。その結果、GRITとバーンアウトとの

関連が示唆された。以上の結果は、日本幼少児健康教育学会にて学会発表をおこなった。

2年目は、前年度の質問紙調査の大規模調査およびインタビュー調査をおこなう予定であったが新型インフルエンザの流行により延期とした。その際に、介入研究も対面が難しくなるのではないかと考え計画の変更をおこなった。海外の文献検討をおこないデジタルコンテンツを用いた介入方法を取りいれるべく試作をおこなった。その成果は、日本幼少児健康教育学会にて発表をおこなった。

3年目は、インタビューを遠隔でおこなった。また、依頼すべく養成校もオンライン授業であったため質問紙調査に関しては難航した。しかしながら、概念構築をおこない保育者版GRIT尺度の開発をすすめた。介入方法はVR機器を用いることにしたコンテンツを開発し、試作をおこなっている。パイロットスタディでは、対面の介入と同等の効果があることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田村知栄子
2. 発表標題 保育者養成校におけるGRITに着目したストレスマネジメントプログラムの提案～保育者養成校の学生の養育環境の分析から～
3. 学会等名 日本幼少児健康教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森口紗也加 田村知栄子
2. 発表標題 保育者養成校の大学生におけるGRITとバーンアウトとの関連
3. 学会等名 日本幼少児健康教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田村知栄子
2. 発表標題 保育者養成校の学生のGRITの高さと保育のやりがいおよび困難さとの関連～保育者養成校の学生の実習報告の分析から～
3. 学会等名 日本幼少児健康教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 半谷真唯 飯田ノア 落合由多 栗屋結奈 鈴木愛梨 鈴木日菜 柘植泉希 永井友唯 古川莉奈 森本紗生 田村知栄子
2. 発表標題 保育者養成校の大学生におけるGRIT、保育者効力感、バーンアウトの経年変化
3. 学会等名 日本幼少児健康教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 栗谷結奈 鈴木愛梨 古川莉奈 田村知栄子
2. 発表標題 保育者養成校の学生のGRIT高群と低群の縦断的研究
3. 学会等名 日本幼少児健康教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田村知栄子
2. 発表標題 保育者の早期離職予防のためのストレス軽減の予備的介入 ～GRIT と感謝介入の関連性～
3. 学会等名 日本幼少児健康教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田村知栄子
2. 発表標題 保育者養成校におけるGRITに着目したストレスマネジメントプログラムの提案 ～保育者養成校の学生の養育環境の分析から～
3. 学会等名 日本幼少児健康教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森口 紗也加 田村 知栄子
2. 発表標題 保育者養成校の大学生におけるGRITとバーンアウトとの関連
3. 学会等名 日本幼少児健康教育学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------